

2021年1月17日 説教「契約を実現して下さる主」

創世記 46 章 8～27 節

ヤコブ（イスラエル）は、ヨセフの招きに従って、親族共々エジプトの地に足を踏み入れました。今朝の箇所はその親族一覧が記されています。

1. ヤコブとレアの間に生まれた子達と孫達（8～15 節）

①ルベン一族（8～9）「エジプトにきたイスラエルの子—ヤコブとその子—の名は次の通りである。ヤコブの長子ルベン。ルベンの子はエノク、パル、ヘツロン、カルミ。」エジプトにきたイスラエルの一族です。長男のルベン。彼は兄弟達がヨセフを殺そうといきり立っている時に、それに反対してその命を守った人です。その子達、エノク、パル、ヘツロン、カルミについての詳細はわかりません。

②レアから生まれた者たち（10～14）「シメオンの子はエムエル、ヤミン、オハデ、ヤキン、ツォハル、カナンの女の産んだ子サウル。レビの子はゲルシオン、ケハテ、メラリ。ユダの子はエル、オナン、シェラ、ペレツ、ゼラフ。しかし、エルとオナンはカナンの地で死んだ。ペレツの子はヘツロンとハムレルであった。イッサカルの子はトラ、プワ、ヨブ、シムロン。ゼブルンの子はセレデ、エロン、ヤフレエル。」シメオンは次男。エジプトに食糧調達に行った時に、人質になった人です。その子たちエムエル、ヤミン、オハデ、ヤキン、ツォハルについての詳細は不明です。サウルはカナンの女性が産んだ子でした。三男レビの子孫は祭司の役割を果たす部族へとなっていきます。その子達、ゲルシオン、ケハテ、メラリについての詳細はわかりません。四男ユダは二回目にエジプトに食糧調達に行った時のリーダーでした。ユダの汚点については 38 章に記されています。そこには、ユダの子エルとオナンが死んだ経緯も記されています。また 38 章にはタマルから生まれたペレツとゼラフの誕生の次第も記されています。イッサカル（報酬の意味）の生まれた順は 9 番目です。その子達トラ、プワ、ヨブ、シムロンについては詳細不明。ゼブルンはヤコブの 10 番目の子です。その子トラ、プワ、ヨブ、シムロンについての詳細は不明。

③レアの子達は 33 人（15）「これらはレアがパダン・アラムでヤコブに産んだ子で、それにその娘ディナがあり、彼の息子、娘たちの総勢は三十三人。」ヤコブが叔父ラバンのいるパダン・アラムで生活し、最初に結婚したのがその長女レアでした。彼女との間から生まれた人々が 8～14 節に記されていました。6 人の男子と孫たち。そして、娘のディナもいました。34 章には彼女が辱めを受けたことを受けて、同じレアから生まれた兄達が怒り心頭で、復讐する出来事には心が痛みます。そんなこともあった、レア関係の親族は 33 人でした。

2. ジルパの子達とラケルの子と孫達（16～22 節）

①ジルパとの子たち（16～17）「ガドの子はツィフヨン、ハギ、シュニ、



エツボン、エリ、アロディ、アルエリ。アシェルの子はイムナ、イシュワ、イシュビ、ベリアとその妹セラフ。ベリアの子はヘベル、マルキエル。」レアはラケルに与えられたビルハに子が与えられたことに嫉妬し、自分もラバンを通してジルパを得て子を得ます。それがガドです。ヤコブの7番目の子です。ガドにはツィフヨン、ハギ、シェニ、エツボン、エリ、アロディ、アルエリが生まれました。ビルハを通して生まれたもう一人はアシェルで8番目の子。彼からはイムナ、イシュワ、イシュビとベリアとその妹セラフ生まれます。また、ベリアにはヘベルとマルキエルが生まれました。

- ②ジルパの間の子と孫は 16 人 (18)「**これらは、ラバンが娘レアに与えたジルパの子である。彼女がヤコブに産んだのは十六人であった。**」ジルパを通して生まれた二人の子と孫たちは併せて 16 人でした。
- ③ラケルの子達と孫達 (19~22)「**ヤコブの妻ラケルの子はヨセフとベニヤミンである。ヨセフにはエジプトの地で子どもが生まれた。それはオンの祭司ポティ・フェラの娘アセナテが彼に産んだマナセとエフライムである。ベニヤミンの子はベラ、ベケル、アシュベル、ゲラ、ナアマン、エヒ、ロシュ、ムピム、フビム、アルデ。これらはラケルがヤコブに産んだ子で、みなで十四人である。**」一方、もう一人の妻ラケルを通して生まれたのが、11 男のヨセフと 12 男のベニヤミンなのです。数奇な人生を歩んできたヨセフは、エジプトでオンの祭司ポティ・フェラの娘アセナテを妻とし、マナセとエフライムが生まれました。またベニヤミンには、ベラ、ベケル、アシュベル、ゲラ、ナアマン、エヒ、ロシュ、ムピム、フビム、アルデが生まれました。合わせて 14 人です。

3. エジプトで生きることになったヤコブの一族 (23~27 節)

- ①ビルハの子達 (23~25)「**ダンの子はフシム。ナフタリの子はヤフツェエル、グニ、エツェル、シレム。これらはラバンが娘ラケルに与えたビルハの子である。彼女がヤコブに産んだのはみなで七人であった。**」ラケルに与えられた女性ビルハを通して生まれたヤコブの子は、五男ダンでその子はフシム。六男ナフタリの子はヤフツェエル、グニ、エツェル、シレム。合わせて 7 人です。
- ②66 人 (26)「**ヤコブに属する者、すなわち、ヤコブから生まれた子でエジプトに行った者は、ヤコブの息子たちの妻は別として、みなで六十六人であった。**」ヤコブから生まれた子でエジプトに向かった人の数は 66 人。ヤコブの息子たちの妻の数はそこには入っていません。
- ③ヤコブ一族 70 人 (27)「**エジプトでヨセフに生まれた子らはふたりで、エジプトに行ったヤコブの家族はみなで七十人であった。**」す。エジプトでヨセフに生まれた子は二人です。ヤコブとヨセフの数を合わせると、66 人に 4 人を加えて、70 人ということになります。それだけの人々が、ヤコブの一族としてエジプトでの歩みに入ったのです。

各民は後に、地図にあるようにカナンの地を分け合う事になります。
《結論》 聖書の中には、人の名前が列記されている箇所があります。マタイの福音書冒頭の系図はその一つです。また、民数記、ヨシュア記、歴代誌などにもあります。それでは、そのような箇所を含めて、人々の名が記されている所は、無味乾燥であり意味のない記事なのでしょうか。

もちろん、そこにも意味があることはいまでもありません。それでは今朝の聖書箇所における意味はどんなところにあるのでしょうか。

第一に、契約の実現ということがあります。つまり、ここに記されたヤコブの親族の名前を追っていくと、よくぞここまで守られたと言わざるを得ません。かつてアブラハムに主が「あなたを大いなる国民とする」(創世記 12:2)と言われた老アブラハムには一人の子どももいませんでした。ようやく与えられたイサクの命がとられそうになったこともあります。主の備えで守られました。イサクの子ヤコブの時代にもいろいろありました。しかし、12 人部族の先祖となる子ども達が与えられ、主との間に交わされた契約は着々と実現されてきました。ここに私たちは主がまことに真実な方であることを学ぶのです。

第二に、ここに記されている人々の、ほとんどはその人となりやその人生などはわからないのです。苦難や試練などに遭遇した人々もあったことでしょうが、聖書はそれらを記していないのです。しかし、ここにはそれらの人々の名前が端折られたり、省略されたりすることもなく、記されています。「わたしの目には、あなたは高価で尊い。わたしはあなたを愛している。」(イザヤ書 43:4)とありますが、一人一人の人生が、十把一絡げではなく、主によって尊いものとして覚えられているのです。これは、取るに足らない私たちのことも、主は覚えていて下さることを教えてくれています。私たちも、この主に心を向けていきたいのです。

三番目に、ここに記されているヤコブの民は、約束の地カナンを離れてエジプトに渡って来ました。カナンに残っていれば、食糧不足のゆえに、命を落とす者もいたかもしれません。ヨセフが予め、エジプトに遣られて宰相となり、ヤコブの一家を迎え入れることによって、イスラエルの民は命を守られたのです。そこに主なる神のご計画がありました。「大いなる国民となる」というお約束は、エジプトに地に渡ることによって実現するのです。エジプトという外国に移されることによって、イスラエルの民は増え広がることになったのです。「あなたの子孫はちりのように多くなる。あなたは、西、東、北、南へと広がり、地上のすべての民族は、あなたとあなたの子孫によって祝福される。」(28:14)というヤコブへの御言葉はこうして、現実となるのです。それどころか、エジプトでイスラエルの民は、「地のちりのように」増え広がっていったのです。

私たちにも、御言葉を通して、主の御約束が与えられているでしょう。

しかし、現実は厳しく、なかなか実現しません。しかし、「愛はすべてを信じ、すべてを期待する」(Iコリント 13:7) とあります。あきらめずに、そのお約束を信じて、主に委ねながら、この年も歩んでいきましょう。